

# Computer Report

Vol. 57 No. 6 6月号 (通巻 753号)

## はじめの言葉

■全世界的には止むことのなさそうなテロ行動、アジア地域的には近隣周辺国による軍事的挑発活動、国内的には共謀罪関連法案の強権的国会通過というように、日本国民をして様々な脅威に雁字搦めにさらされている感がある。まさにどこを見ても脅威である。グローバル／リージョナルな国外からの脅威に対応するためとは言え、自国政府による自国民への恣意的な脅威を高める可能性には、底知れぬ不気味さを感じる。

■時の政府というものが、内政的に危うくなると、国民の眼を国外に向かせることで一時的な安定を保とうとする姑息手段は、洋の東西を問わない。失言に失言を重ねている与党議員の問題発言の中に、「(企業に) 広告出稿を止めさせマスコミを懲らしめてやる」というものがあつたが、この延長には言論弾圧をも正当化させる意思が見て取れる。編集会議ですら国家的大逆罪に通ずる共謀罪が問われる可能性があることを示している。

■とにかく、現政権の閣僚はじめ与党議員の非常識な言動は、ことあるごとに最高責任者だと豪語する安倍首相の言動に倣ってのことのようだ。前川前文科省事務次官が明らかにした「官邸の最高レベルが言っていること」「総理のご意向」文書の存在など、安倍総理周辺から流れてくる怪しげな疑惑が、続々と滲み湧き上がってきている。取り巻き連中も、そのお零れに与かっているという構図なのだろうか。

■自らをして「最高責任者だ」を連呼する安倍首相に違和感を覚える。正確には、その言動に滲み出ている彼の本性に非常に不気味なものが感じられる。「官邸の・・・」には「宮廷の・・・」を連想される驕りがある思いがする。どういつもりの内部文書かは知らないが「総理のご意向」の表現は驕りの極みがある。まさに「天皇のご意向」気取りとでも言えそう。世界史上には、こういう立ち居振る舞いをした人物が何人か存在している。

■奇しくも今上天皇は退位のご意向を示されている。本来「ご意向」を慮るとは、それなりの品格風格を背景に裏打ちされているものである。安倍首相の周辺は、ほとんどお友達で固められているとされるが、お仲間内では、安倍首相をしてそのように立ち振る舞いするシキタリになっているということだろうか。森友学園そして加計学園問題は、そうしたシキタリの結果の一端、ほんのお零れ話だということかもしれない。

■こんなお仲間集団が国家権力中枢を掌中に治め、敵対する勢力をすべて共謀罪で取り締まり始めたとしたら、文字通り闇の時代になる。こんな闇の時代の到来を、グローバル／リージョナルな脅威を盾に取るやり方、ドサクサ工作で招き入れてはならない。危ない政府に、インターネットテクノロジーをベースした国民監視／盗聴、そして情報独占を許したとき、国民にとって日本は真っ暗な闇の世界となる。

■情報社会の要諦は情報公開である。閉じられた政府によるノリベン報告書など言語道断、断じて許してはならない。国家権力／政府を監視することこそが、情報社会の国是であり、国民の義務である。国会議員を含めて、国家権力者のご意向付度など、あつてはならない。総理周辺のご意向付度操作およびその担い手である走狗どもを国民の手で一掃する必要がある。共謀罪は、国民の手を恐れる輩たちだけに利するものだと確認したい。(藤見)